



食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

「もったいない」の心を持って、食べ残しを減らしたり身近な地域でとれる農林水産物を積極的に活用する地産地消を進めるなど、食べ物の消費と生産の両面から、環境への配慮に取り組みました。

1 食生活における環境への配慮の徹底

中高年・シニア環境学習推進事業	
愛知県環境活動推進課	
<p>●実施時期：通年</p> <p>●対象者：小学生以上(主に小学4年生以上)</p> <p>●内容</p> <p>中高年・シニア世代から先人の知恵や経験を若い世代に伝えることにより、異なる時代のことを知り、深い学びにつなげるため、小学校等に、環境学習の講師を派遣し、環境学習講座を実施しています。</p> <p>普段の生活で食品ロス削減に取り組む意識を育むため、様々な食べ物のカードや大根の写真を使ったゲーム等を通して、食品ロスについて学びました。</p> <p>●活動の成果、今後の課題</p> <p>参加児童にアンケートを実施したところ、9割以上の児童から、食品ロスについて「分かった」と回答がありました。また、講座実施前よりも学校給食の食べ残しが減る等の児童の行動の変化が見られました。</p>	
(取組項目：子どもに対する環境学習の推進)	(取組場面：学校)



食品ロス削減環境学習プログラムの作成	
愛知県資源循環推進課	
<p>●実施時期：通年</p> <p>●対象者：県民</p> <p>●内容</p> <p>これまで、家庭の消費行動に影響が大きい子どもを対象とした啓発資材がなかったため、小学生(中・高学年程度)を対象とした、動画やゲームで構成される「食品ロス削減環境学習プログラム」を作成し、市町村や環境学習施設に配布しました。</p> <p>また、本県の Web ページで動画やゲームを公開し、広く活用してもらえるようにしました。</p> <p>●活動の成果、今後の課題</p> <p>作成した啓発資材をいかに学校、市町村イベント等で活用してもらうかが課題です。</p>	
(取組項目：環境に配慮した食料品等の購入やリサイクル等の実践)	(取組場面：地域)



ごみゼロ社会推進あいち県民会議

(「不法投棄対策部会」「ごみ減量化対策部会」「ごみ再資源化対策部会」3部会合同会議における講演)

ごみゼロ社会推進あいち県民会議

●実施時期：2019年10月10日

●対象者：ごみゼロ社会推進あいち県民会議会員（市町村職員、女性団体、事業者団体等）

●内容

国内では年間643万トンもの食品ロスが発生しており、食品ロス削減に向けて更なる取組の推進が求められています。こうしたことから、市町村職員等を始め県民会議の会員の食品ロス問題の理解を深めるため、神戸大学の石川名誉教授に「循環型社会への移行に向けて：プラスチックごみ問題と食品ロス問題」と題して講演いただきました。



●活動の成果、今後の課題

会議には62名が参加し、会議の終了後には多くの参加者が講師に質問をする姿が見られるなど、食品ロス削減に対する理解を深める機会になりました。今後も同様の取組を継続していきたいと考えています。

〈取組項目：環境に配慮した食料品等の購入やリサイクル等の実践〉

〈取組場面：地域〉

親子エコ・クッキング教室

長久手市

●実施時期：2019年8月7日

●対象者：市内在住の親子

●内容

東邦ガス(株)ガスエネルギー館の協力で、食材を上手く使い切る方法や、必要以上にごみを出さないようにし、生ごみは水切りするなど、環境に優しい生ごみの処理の方法を学び、家庭ですぐに実践してもらうことが目的です。

ガスエネルギー館館長によるエコ・クッキングの説明、クッキング講師によるデモンストレーション、調理実習、試食、ふりかえり、環境講座という流れで実施しました。

当日は、親子10組22名に参加いただきました。

●活動の成果、今後の課題

アンケート結果から、参加のきっかけは料理教室に興味がある親子ばかりで、エコに関心がある人は3割程度でした。そのため、これまでエコに関心がなかった人に、エコに関する啓発ができたと思います。

今後も間口を広げ、多くの人に啓発をする必要があると考えます。



〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：地域〉

2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

農業教育用資料「愛知の農業」の作成・配布

愛知県農業協同組合中央会

●実施時期：通年

●対象者：愛知県内の全小学校・義務教育学校・特別支援学校の5年生

●内容

学校教育の中で本県農業への理解を深めることを目的に、農業教育用資料「愛知の農業」を作成し、愛知県内の全小学校・義務教育学校・特別支援学校の5年生を対象に配布しました。

「愛知の農業」では、県内を7つの地域に分けて、地域ごとの特徴的な農畜産物が一目でわかるように、地図上に載せて紹介しています。生産量が全国でも上位に入る農畜産物や、愛知の伝統野菜、ICTなどの最新技術を取り入れた取り組みなどを紹介しています。また、農業が生物多様性保全に果たす役割や、地産地消の意義を学ぶことができます。

●活動の成果、今後の課題

地域の農業を学ぶ学年の児童に対し、本県農業や農業の果たす役割への理解を深めてもらう一助となりました。教師へのアンケートでも、「教科書より愛知県の農業について詳しく書かれている」との意見が多くあります。今後は、より多くの学校で「愛知の農業」を活用して頂けるよう、資料内容の向上を図ります。



〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉

地産地消啓発イベント

安城市、愛知県立安城農林高校

●実施時期：2019年10月、12月、2020年3月

●対象者：市食堂利用者

●内容

地産地消の啓発及び学校教育との連携、産学官連携の取組として、愛知県立安城農林高校の生徒が育てた農畜産物を使用した特別メニューを市食堂で販売しました。

また、農林高校の生徒が加工品や卵などを食堂内出張販売し、農林高校の活動を通じて地産地消を啓発しました。

●活動の成果、今後の課題

利用者に向けて効果的に地産地消の啓発ができました。

また、安城農林高校生の活動を知ってもらういい機会となりました。

2019年度は下半期の実施となったため、2020年度は実施時期を検討したいです。



〈取組項目：青年期以降における地産地消の実践〉

〈取組場面：職場〉

3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

フードバンク支援・食育の取り組み

日本労働組合総連合会愛知県連合会

●実施時期：通年

●対象者：連合愛知加盟組合員

●内容

連合愛知 30 周年事業として、フードバンク活動を発展させるにあたり連合愛知でも農園を持つことが決定され、農業事業団体の農縁塾「みんなパタ」プロジェクトと連携し、「ここあファーム」を津島市で開園しました。

ファームの畑および田んぼにおいて、年間 10 種類程の野菜やお米を育て、採れたものをフードバンクとしてセカンドハーベスト名古屋に寄付するほか、年 4 回、組合員とそのご家族を対象に、食育を兼ねた農業体験を実施する予定です。

●活動の成果、今後の課題

2020 年 1 月にファームで採れたジャガイモ 67 kg を収穫し、セカンドハーベスト名古屋に寄付しました。

課題ではありませんが、新たな取り組みであるためフードバンクの寄付や食育イベントの実施など、模索しながらの取り組みとなります。



〈取組項目：フードバンク活動の普及啓発〉

〈取組場面：地域〉

